

成果の説明書

(氏名)	溝口哲郎	(学部)	
1 重要事項			
【研究活動】			
・ 本学地域科学研究所の製造業プロジェクトの研究成果の一環で高崎市を本拠地とする齊藤プレス工業に関する企業調査および、タイ子会社の海外進出動向に関して、書籍の第13章（「ろう付け加工のプロ集団の海外展開：齊藤プレス工業」）を提出し、製造業プロジェクトⅡ研究書籍『地方製造業の躍進－高崎発ものづくりのグローバル展開－』（日本経済評論社）として2022年1月に刊行した。同時に、本書の内容を簡略化したブックレット第11章に「齊藤プレス工業株式会社」の執筆を行った。			
・ 2021年度科研費（基盤C）に採択され、「腐敗・汚職の経済理論モデルの構築－経済厚生からのアプローチ」という題目で、現在腐敗・汚職の経済理論モデルについて様々な研究事例のサーベイや分析の基礎を目下行っている最中である。また腐敗・汚職に関する一般向けの啓蒙活動の一環として現在、専門学術書を翻訳している（詳細は刊行後の成果報告書で述べる）。			
【教育活動】			
・ COVID-19の感染が懸念されたが、対面授業と適宜オンライン授業を組み合わせて授業を行った。			
・ 2021年度前期に開講した Introductory Economics の授業では、積極的にアクティブラーニングを行った。これはテキストを利用しているセンゲージラーニングのシステムで、受講生の授業の理解を深めるために e-learning システム (Mindtap) の導入を行った。このシステムは、特に時間の融通がきくため、おおむね好意的であった。			
・ 2020年度に引き続き、野村証券&日本経済新聞社主催の第22回日経ストックリーグに2年生2チームが参加した。コロナ禍の中対面での作業が難しかったこともあるが、「水問題」「SDGsと食糧問題」に焦点を当て、各メンバーが関連銘柄を調べてレポートを提出した。			
・ ゼミの第二期生の卒業論文指導を行った。テーマは日本の教育、オンラインゲーム、BTSの経済分析、PFIの経済分析、SDGsと株価指標、洋服リサイクル、音楽のサブスクリプション、スタバがなぜ支持されるのか、金融投資に関する卒業論文が提出された。			
・ 株式会社リアルワールドゲームズの実証研究に参加。これは防災情報をGPSベースのゲームに導入するための評価に、学生目線で防災情報を考えるというものである。目下進行中である。			
2 その他の事項			
引き続きオンライン・オンデマンド教材の作成とゼミ教育の在り方について模索をしているところである。			

3 次年度以降の計画・抱負

教育については以下のような計画である。

引き続き COVID-19 の感染が収束しない中、対面授業が行われている。自分の体調管理を万全にしながら、大学のガイドラインを念頭に、ゼミ・授業を行い、学生のメンタルサポートなどを行っていききたい。また第三期生が希望する就職先に就職できるように全力を尽くしたい。

研究については以下の通りである。

腐敗・汚職は、市場メカニズムとは異なる賄賂などの金銭的インセンティブによって、資源配分の歪みを通じて一国の経済厚生に悪影響を及ぼす。そこで今年度も継続して、過去の研究蓄積をベースに腐敗・汚職がどのような形で国家統治や制度、市場の質に影響を与えるのかを経済厚生の評価から明らかにし、腐敗・汚職防止策がどの程度経済厚生を高めるのかを分析する。特に先進国の腐敗の問題と政府の経済政策の妥当性について分析を試みる。加えて、2022年2月にロシアによるウクライナ侵攻も起こり、独裁制と民主制における腐敗のコストについても国家統治の質という観点から分析を執り行う予定である。研究に関しては、科研費に採択されたこともあり、研究と啓蒙のバランスを取れるようにしていこうと考えている。さらに腐敗とSDGsについても新たにテーマとして加え、なぜ腐敗がSDGsを困難にするのかを検証していきたい。さらに位置情報ゲームとブロックチェーン、トークンエコノミー、NFTに関する研究を執り行い、地域経済や国家の政策につなげていきたいと考えている。